みやの森カフェのスイーツ、本当売切続出だから早めに食べた方が良いですよ

みやの森通信

第11号
2021/5/6
発行:
Ponteとやま
編集長:
家森 謙

発達凸凹向けフリーペーパー

Ponteとやま(みやの森カフェ) 住所: 富山県砺波市宮森303 電話:0763-77-3733 メール:miyanomori.ponte@gmail.com

Ponteとやま facebook 検索　Ponteとやま 検索　Ponteとやま フリーペーパー 検索

facebook QRコード
【推奨】最新情報こちら

ホームページ QRコード
[Ponteとやま全体案内]

みやの森通信 QRコード
[バックナンバーこちら]

逃すな！即日完売続出！！成長はんぱないガールズスイーツ

フリスタガールズチームは、市場調査＆トレンドを意識し、商品開発に余念がありません。
もちろん、試作も念入り。2020年度にカフェたんぽぽとして提供したメニューは
軽く10種類を超えています☆彡
カフェたんぽぽ、5月は第1・4火曜午後、6月以降は第1・3火曜午後オープン予定です。

ラテアートは
希望の方に💜

ハロウィンは
お化けのお団子で

サクッとしたシュー皮と
程よい甘さのカスタード

勿論、るりちゃん＆ゆかりさんアイテム含め他スイーツのクオリティもはんぱない。完売続出！

ティラミスは即日完売

ラムレーズンバターサンドも
即日完売

可愛くて食べれないシュークリーム

完売

シュトーレン？との声も上がる
ドライフルーツぎっしりケーキ

小さくても
いちごの
存在感有
タルト→

タカチ動物園特別編　今、そこにある脅威（下）
～ハンターは正義の味方じゃない～

ある日森の中、熊さんに出会う戦慄を味わい、その後もみやの森通信の文字数制限を超える勢いで熊さんに遭遇するタカチ園長。今、そこにある脅威(下)

ある日、猟友会の事務局を受け持つことになった。簡単にいうとハンターの後方支援だ。
主な仕事は会費の管理や書類申請、会合への出席などだ。

人生において今までハンターという人種に接したことがなかった。もともと希少であり、
彼らの生態は実に面白い。まず勘違いされることだが、
ハンターは決して正義の味方ではない。あくまで猟をする趣味の集まりなのだ。
そしてそのために銃を所持している
（銃がなくても網や罠でも猟はできる）。
銃の所持にはものすごく高いハードルがある。
金銭面や法律、日常的な管理、並大抵の労力ではない。
だからこそ銃はハンターのアイデンティティなのだ。

生き物を好きな人にとって、生き物を殺すことは
心苦しい。だが、殺すことで生き物をより深く
理解することができる。野蛮に思う人も多いだろう。
理解できない人もいるはずだ。
是非についてここでは議論しない。
そういう世界があるとだけ思ってほしい。

近年、クマの大量発生による人身事故がたびたび起こっている。全国ニュースになることも珍しくはない。人身事故を防ぐため、現地を調査し、クマの行動を予測し対策を練った。

クマは希少な野生動物である。メスは1回の交尾で2頭出産し、小熊が成獣になるには
2年要する。１年で成熟し、1回に４～６頭出産するイノシシとは違う。

だが近年、クマも生息域を拡大し増えているように思う。耕作放棄地が大きな原因の一つだ。
よく、人が野生動物の住処を奪ったという意見があるが、人が生息域を縮小し、そこに
野生動物が進出しているので、まったくの逆だと言える。

希少な動物であるクマは県によって頭数が管理されており、捕獲には許可が必要となっている。
捕獲許可のための申請書類も作成した。

クマは危険だ。危機が迫っている。捕獲が必要だ。なんだろう？昔のアニメなら確実に悪役だ。
なんとなく手塚作品の意地の悪い悪役の顔が目に浮かぶ。クマを守る会的な団体から
抗議の電話も頂いた。

例によって紙面の都合上詳しくは
書けなかったが、猟友会から
功績が認められ、クマの毛皮をいただいた
（加工賃は自腹）。それがタカチ動物園で
展示されているクマの毛皮なのだ。

クマとの戦いはまるで映画シン・ゴジラ
みたいだった、、、
絶対に「やったか？」って言っちゃ駄目だ。

タカチ動物園は移動型。みやの森カフェでもちょくちょく開催中。生タカチを体感してください！

なっちゃんの山紀行vol.2　西穂高岳独標～カムバックの山

20代の頃、山岳会に所属していたが、転職や結婚で20年余り
山から遠ざかっていた。
アラフィフで山岳会に復帰。復帰第1回目の山行が晩夏の西穂独標
だった。当初は丸山という、登山口から2時間程で到達する
可愛らしい小ピークまでの予定だったが、当日は超快晴。
丸山で引き返すのはあまりにも勿体なく、独標を目指す事となった。
西穂独標。西穂高岳本峰手前の、小ピークというにはちょっと
岩が険しめのゴッツゴツなピークだが、西穂山荘を過ぎた稜線
登山道から見上げる独標は、「あのてっぺんはさぞかし気分がいい
だろうなあ！」と思わせる姿である。そりゃあ皆の衆は丸山じゃ
満足せずに行くさなあ。そうさのうマリラ（byマシュー小父さん）

…そう。私はみんなと一緒に独標へは行かず、独標手前の稜線で
行き倒れていた。20年ぶりの山。運動不足と加齢は容赦なく、
足全体が1トン級の重さで歩けなかった。「俺の事はいいから皆んな先に行ってくれ」。
雪山では深刻なこの台詞も、夏山快晴の爽やか稜線では、「あらー残念、じゃあねー」
てなもんである。

マヌケな状況ではあったがミジメではなく寧ろうれしかった。快晴の稜線。西穂高の雄大な
山並み、格好良い焼岳、上高地は帝国ホテルの赤い屋根まで見える。日曜日の午前10時。
家でサンジャポ見ている筈の時間帯に、このアルペン感。映画サウンドオブミュージック
冒頭のように、山岳大絶景にポツンと自分が置かれている図に感動した。山に帰って来たなあ。
足が鉛だなあ…。

カムバックな山に感動しつつも敗退の西穂独標。2年後にリベンジする事となった。季節は
同じく晩夏。やはりド快晴。登山口からの樹林帯の道はやや急登ながらも涼しくて、
針葉樹の匂いが心地よい。途中から笠ヶ岳のたおやかな山容も見えてついついニマニマして
しまう。樹林帯を抜け西穂山荘にて休憩後、いざ稜線へ。てくてく歩くと「丸山」と書かれた
道標が。「えっ！もう丸山？アレ⁉」丸山ピーク到着があまりにも呆気なくて驚く。
もっと遠かった気がしたけどなあ。

更に風吹く稜線を登っていく。進む度に広がる上高地や西穂高岳などの絶景。夏の北アルプス
うおーーーー…って感動していたら独標手前到着。「えっ、もう？アレ⁉」全てが呆気ない。
そう。リベンジまでの2年間、山行を重ねている内に、いつの間にか筋力がついていたらしい。
喜びつつ独標の岩に取り付く。高所恐怖症にはなかなかの高度感。
下を見るな岩にひっそり咲くイワリンドウの清楚な姿を見ろ
ホラ綺麗じゃあござぁませんことオホホ…自分をだましだまし、
何とか立った独標ピーク。山頂で記念写真を撮る。気分は
オスカー授賞式だ。「センキューエブリワン！センキュー！」
脳内に鳴り響くスタンディングオベイションの拍手の嵐。
そして忘れようにも頭から離れない「帰りは下るんだよね
あの恐ろしい岩の道、てか崖じゃんコレ」という恐怖。
ダッサダサのへっぴり腰だろうが格好悪かろうが生きて
帰ったもん勝ち！が自分の信条。岩に齧り付いて生きて
無事下山しました。鼻水垂れましたが。

アラフィフでも運動神経無くてもダッサダサでも、コツコツ
月1回は登り続けた2年間。山は応えてくれた。すごい！やれば
できるもんだ…。そしてそれが叶う環境にいる事にもしみじみ
感謝の念が湧いてきた。まさに「センキューエブリワン！」。
この時の感動が次のチャレンジ山へと繋がっていったけど
その話はまたいつか。

コミュニティカフェ全国交流会参加報告(2021/3/21)

2021年3月21日第10回コミュニティカフェ全国交流会（主催：府中市市民活動センター・（公社）長寿社会文化協会（WAC））にて、齋藤保さん（横浜 港南台タウンカフェ）と対談させていただきました。

私が前職富山YMCAで「Y'sさくらカフェ」の担当となり迷いに迷っていたとき、WACが提唱していたコミュニティカフェの概念に出会って救われた気がしました。当時WACが募集していた「コミュニティカフェを作ろう」という論文募集に応募してなんと会長賞をいただきました。内容は、「降ってきたコミュニティカフェ」??きっと皆さん、志を立てて苦労して作ったと思われるカフェですが、私の場合は、「降ってきた」としか言い様がない状況でした。YMCAが作ってくれて、カフェをやったことがない私が店長。生徒や生徒のお母さんやら外国人講師や卒業生を巻き込んでスタートしたカフェ。たいへんでしたが、私の運命はそのとき変わった気がします。

そして、数年前に偶然訪れた港南台タウンカフェ。何と代表の齋藤保さんは富山県南砺市出身。そして富山YMCAの職員だったと聞いてひっくり返りそうになりました。富山にも来ていただいてお話を伺い、そのシステムのスケールの大きさ、やっている内容の豊かさに感動しました。その齋藤さんとの対談が2021年3月21日にZOOMで行われました。

私と齋藤さんの共通点は「他所者（よそもの）」！
齋藤さんは富山出身,現在神奈川で活動。私は神奈川出身、現在富山で活動。
「よそもの」は、何もないところからスタートするしかない。孤独なスタートではありますが、逆に自由。できることを少しずつはじめてしまえば、つぎの課題やステップが見えてきます。最初に緻密に計画してもそれは大部分なぎ倒されていきます。特に、このコミュニティカフェは隙間にいる存在なので、既存の常識やシステムにはなかなか合致しません。その代わり、今まで日の当たっていない隙間の需要や人と出会えるチャンスは満載！

私は庭にカフェを建てたので、そんなことなかなかできないと言われます。でも、富山の大きなおうちを見ると、絶対「我が家＋カフェ」の方が小さいと思う。「おうちを家族だけで閉じないで地域に開いて生きていこう」という発想さえあれば、可能です。

自分でできなくても、場を提供する人、労働を提供する人、資金を提供する人、利用する人、繋げてくれる人、それぞれができることを持ち寄ればスタートできて、継続できる。齋藤さんと「人の一本釣りを繰り返してきましたね」と盛り上がりました。

もちろん、今コロナでたいへんなときですが、スキマのコミュニティカフェは、手を変え、品を変え、その持ち味を磨いていくときなのだと思います。齋藤さんと話しながら、そんな覚悟もできました。

2018年12月 港南台タウンカフェにて

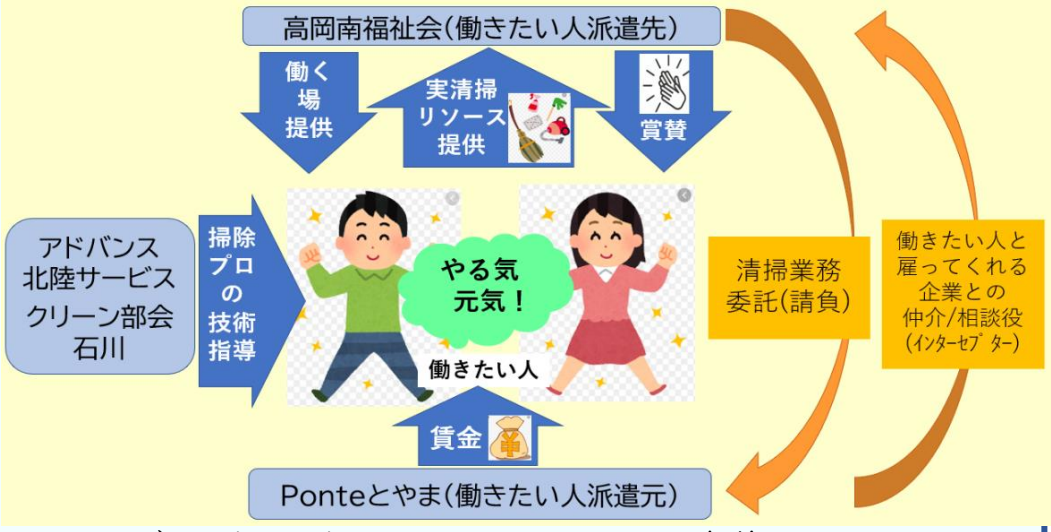
この交流会の第2部では、これから開設する皆さんの計画発表。第3部では、全国各地のコミュニティカフェの皆さんとの分科会交流。全国に仲間がいるのだと実感できた時間でした。現実の交流がなかなかできない今、逆にオンラインで気軽に話し合えたり,交流したりできます。今できることを見つけることから新たな方向性が見えてくるかもしれませんね。（加藤）

みやの森通信への広告掲載依頼はこちらへ→miyanomori.ponte@gmail.com

Ponteとやまは制度外就労の可能性にチャレンジ中！(6ページ目に続く)

みやの森カフェを訪れてくれる人たちは千差万別、多種多様。直面している悩みや困難さ、生きづらさも様々で多岐にわたります。たまたま出合わせた人同士「あ～そうだよね」と共感しあえることもあれば、タイムリーな情報をゲットできることもあります。

でも、今取り組むべき「必要」が見えてきたのは『就労』でした。働きたいけど自信がないしどうしていいかわからない、働いてみたけど続かない、自信喪失してしまったという若者たちやお母さんたちを目の前に「必要なのに無いなら作るしかない！」と意気込んだ私たちでしたが、どこから手をつけていけばいいものやら…と思っていたかれこれ3年前、高岡南福祉会理事長の澤田さんと出会いました。



介護現場は慢性的な人手不足のため、介護士さんたちが「介護」に専念できるよう、サポーターとして地域のシルバー世代を雇っているとのこと。これまで、発達凸凹があったりコミュニケーションに困難さがある人たちは、「介護」の仕事は難しいと言われてきたけれど、サポーターの業務内容は、皿洗いや洗濯など日常生活の中でもやっていることに近いので、これはできるのではないか…と思いました。ちょうど相談に来ていた再就職したい若者、病気療養後や子育て終了後に再度働いて収入を得たいという人数名を雇ってもらえることになったのです。しかも、Ponteとやま代表理事の水野も相談員として雇ってもらえることになり、働きたい人と雇ってくれる企業との「インターセプター」として両者の相談役と仲介役を担うことになりました。理由は様々でも、離職経験がある人の多くは、ちょっとした困難があると「この仕事は合わない」「自分にはむいていない」「まわりに迷惑」だから「やめる」選択をしがちです。「気づかないうちに疲れがたまっているのかもしれないから少し休んでみる」ことや「身体の調子を整えること」を提案することで、やめるのではなく「休む」ことができて継続して働くことができるようになっていきました。

しかし、介護現場の人手不足はいよいよひっ迫し、ベトナム実習生のみなさんを介護士として雇うことになった理事長から、今度は「環境整備（ベランダの蜘蛛の巣はらい、手すりの清掃、側溝掃除、草刈り）に手が回らない」との話が舞い込みました。

ちょうどPonteとやまでは、フリスタに参加している若者たちも働く練習をしたいという希望があったので、訓練として取り組んでみることになりました。

毎回決められた時間に遅刻せず行くこと、道具を準備したり片づけたりすること、指示を聞いて任務遂行すること、わからないことは質問したり報告したりすること、体調管理しながら働き続けること。仕事の内容は単純だけど、フリスタメンバーは実際に「働く」体験を通してたくさんの気づきを得たり学んだりしました(次ページに続く)

Ponteとやまは制度外就労の可能性にチャレンジ中！(5ページ目の続き)

その様子を見て、今度は内部清掃の要請がありました。チャンスをいただいたことに感謝しつつ、清掃のノウハウはないのでどうしたものかと思っていたところ、アドバンス北陸サービス（石川県）の杉本社長と出会ったのです。聞けば、宮崎県の清掃会社社長税田さんの取り組みに感動し、障害があってもプライドを持って働けるためにとクリーン研修のシステムを作っているとのこと。早速、就労支援企画室の加藤（キャリアコンサルタント）が参加しました

昨年9月下旬に「プロフェショナル清掃」を実施するための実地研修をアドバンス北陸サービスに依頼、半日の研修には８名が参加して、専用用具とリスク度合に応じた色別管理等を前提とした「プロフェッショナル清掃」の技術・ノウハウを学びました。

しかし、すぐに身に付くものでもなく、そこから約２週間かけて高岡南福祉会施設内での反復実践トレーニングを実施、１０月中旬から高齢者介護施設で清掃作業を就労者３名・指導員１名で開始しました。メンバーが戸惑わないように、見やすいマニュアルを作成して清掃用カートに常備する、何か困ったり不安定な気持ちになったときは相談できる体制・ルートをきめておくなどの工夫もしてみました。

当初は、施設内の１ユニット(居室10室・トイレ3室・食堂・風呂)のみの担当でしたが、１１月からは２ユニットへ、１２月からは３ユニット+２階フロア共有部を担当するようになり、そのころには就労したメンバーも清掃の仕事を余裕とやりがいをもって実施できるようになり、新聞の取材も受けることになりました。

働きづらい・生きづらい人が働ける場が増えるよう、そして、賃金がしっかりもらえるようなシステムを作るために、さらに前進。同じ思いを持った就労支援の事業所や市民団体の皆さんと、「工賃向上・施設外就労支援拡大のための就労支援清掃事業（クリーン事業)」の研修会を開催しました。石川県には、すでに杉本さんたちが立ち上げた「クリーン部会」があります。清掃の技術を身につけて、プロとして働ける人を増やすために、富山でもこれを作っていきたいと思います。

富山では、障害の有無を問わず、「働きたいけど働けない」人たちを視野に入れて、新たな仕組み作りをしていきます。
清掃の技術を身につけることで働くことを可能にする。グローバルクリーン（宮崎県）、アドバンス北陸サービス（石川県）。企業との協働が可能になったことで、新たな可能性を感じています。

江畑美由紀リーダー

最近、清掃のお仕事をしている仲間の働く姿を見て格好いいと思うようになりました。挨拶して居室に入る。利用者さんに声を掛けながらテキパキと清掃をする。「お掃除終わりました。ありがとうございました」と一礼して居室を出る。清掃用具を格好よく片付ける。清掃はトレーニングしたので完璧です。清掃用具を乗せたカートを押す姿は颯爽とし、皆、イキイキとしています。清掃の仕事をして得るものは沢山あります。仕事を終えた後の爽快感は心まで安定させてくれます。また、よく歩くので、私は増えすぎた体重が減り、血液のデータも改善し、体調が良くなりました。何より働いてお金を頂けることは生き甲斐にもなります。ワンチームで仕事をやり遂げることで気持ちも一つになってきました。少しの根性と思いやりがあれば皆がサポートしてくれます。清掃のお仕事がこんなに楽しいとは思いませんでした。心も体も健康になれる清掃。あなたもやってみませんか？

江畑さんは、介護施設看護師としても活躍中。みやの森カフェの保健室でもお世話になっています。

Ponteとやま フリースタイルスクール まとめの会(2021/3/28 10:00-)

カフェ営業のない月～水曜中心に年間を通じて活動してきた「フリースタイルスクール」（通称：フリスタ）。参加してくれた、小学生から大学生までの延べ403人のメンバーを代表して、タケシさんとS・Kさんが意見発表しました。タケシさんは『大きく成長した自分』、S・Kさんは『生きる力を身につける』と題して、これまでの自分を振り返るとともに、フリスタを通して学んだことを、それぞれの言葉で表現しました✨

【タケシさんの語りから】

・勉強が大好きで、“よい成績”が自分の価値だと思っていたのに、高校入学後は思うように成績が伸びず「もうどうでもいい」と思った。
・その後ゲームに没頭し、今から思えば大変なことをいろいろとやらかした。
・高２からは不登校気味に。同じ時期に母親が病気で入院し、生活リズムも狂った。父親の介入が激しく、たびたび衝突した。
・高３で高校中退。カフェに通い始めた。
・フリスタに継続して参加することで、生活リズムが整い、体力がつき、成功体験を積み重ねることができ、自分の得意不得意がわかるようになった。
・自分にとって「障害」とは「自分の課題を教えてくれるもの」と思っている。
・今、ようやく、将来のことを考えられるようになってきた。
・車の免許取得したら、進学か就職かあらためて考えたい。

【S・Kさんの語りから】

・中学校の頃から真面目さを意識し始め、勉強に集中するようになり、趣味の変化等、自分にとっての興味 関心のあることが変化した。
・身の回りの細かいことを気にするようになった。
・高校時代の時は、勉強のことと自分が楽しいと思うものことだけを考えるようになり、人と関わることには関心が薄くなった。
・フリスタの活動を通して学んだことは、仕事をする上で体力をつけるのは重要なもの、力のコントロール、主体的に行動することの大切さ。
・自分が変わったと思うのは、苦手なコミュニケーションは、少しずつではあるが、しっかりと話せるようになっていること、スケジュールの管理は、忘れないうちに書き込むということを心がけるようになったこと、何か困ったことがあるときは、率直に質問できるようになったこと。
・将来は一人暮らしをしてみたい。

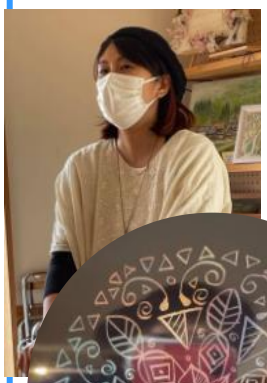
発表を聞いてくれていたRikitoさんが「ここはいい意味で放っておいてくれる」と言ってくれました。
もちろん、自分一人の空間ではないので、当然ルールはあるけれど、ノルマがあるわけでもなく、到達目標があるわけでもない。誰かに強制されることもない。提案はされるけど、やるかやらないかは自分が決める。
まずは、自分の気持ちに気づき、自分で決め、小さな失敗を恐れず挑戦してみることから。
そして、成功を喜び合う、失敗は笑いあう（!(^^)!）。
時と場を共有していく中で、仲間意識が生まれ、仲間として成長していく。
そんなシーンにこの１年何度も遭遇しました。
ボランティアスタッフとして協力し続けてくれているニッシーとルリちゃんの、時に子どもや若者目線、時に少し先輩目線がなんとも絶妙な存在感!!感謝です。

2021年度も「フリスタ」は前進中。さて今年はどんな出会いがあり化学反応が起きるのか…
WAKUWAKUが止まりません。

みやの森通信への広告掲載依頼はこちらへ→miyanomori.ponte@gmail.com

Caféな日常

みやの森カフェは、おとなの居場所にもなりつつある・・・このところ、おとなの学び講座が満員御礼となっています。3月20日は、コーヒーの焙煎とドリップを楽しむ会。外で山田さんのワイルドな指導の下、10名を超す皆さんが、ガスコンロでコーヒー豆の焙煎に挑戦。カフェの中では、カナメコーヒーの要君が丁寧にドリップの講義。この相反したお二人の醸し出す雰囲気は微笑ましい。おいしく入ったコーヒーに、るりとゆかりんコンビの心こもったスイーツセットに皆さん、大喜びでした。



そして、4月18日は、山崎理華さんのタングル・ドローイングアート教室。タングルとは「絡まる」という意味だそうです。理華さんが今まで描いてきた絵を見せてもらいながらわかりやすい解説にそってペンを走らせる。ペンも極細、蛍光、黒地に生えるペンなどそれだけで心ウキウキしながら、それぞれ没頭していました。できた作品は、力作ばかり。おうちに帰っても続けて描いていた人も多くいて大好評でした。また、やりますね。

KAORUがつぶやく

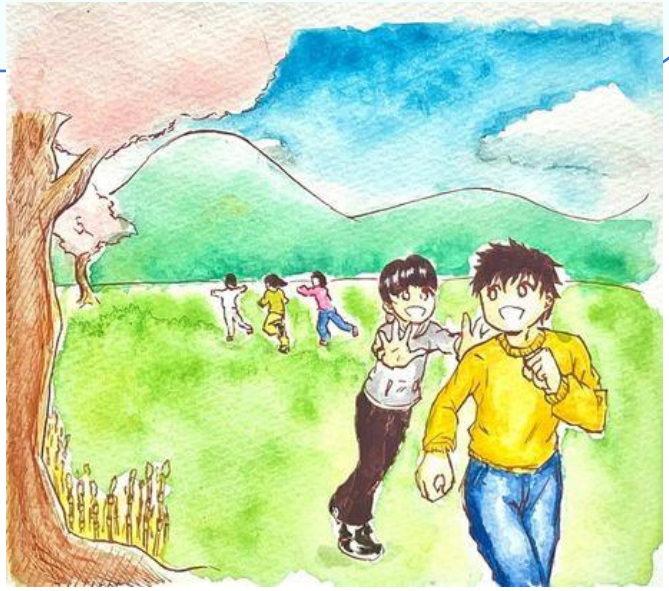
年中児の頃カルピス名作劇場でアニメ「ムーミン」を見て以来、ムーミンが大好きだ。特にミイがお気に入り。ミイは、勇敢で独立心旺盛な女の子。年中児にして、ミイに自分を投影していたのかも(-.-)
最近は、ミイの名言集なるものがネット上で掲載されている。

「たまには、怒んなきゃね。どんなちっちゃな生きものにだって、怒る権利はあるんだから。だけど、ムーミンパパの怒りかたって、よくないわね。ちっともはきださないで、みんな、しまいこんじゃうんだもの」
そうだそうだ！やっぱりミイは大好きだ。

先日、ブルーインパルスが砺波上空でパフォーマンス飛行をした日、カフェ周辺の道路が想像以上に混雑した（関心がないので認識不足だっただけだけど）。ちょうど昼過ぎに砺波地区を西に向かって移動しなくてはならなかった私。裏道を駆使するも、行く先々で大混雑。次第に怒りが増大する(-.-)。怒っても状況は変わらないけれど、湧き上がる感情は仕方ない。多くの人が肯定的なイベントなので大体的に文句も言えず、あ～ぁと思っていた時に、ミイの名言を発見した。共感してもらった気分になりようやく気持ちが収まった次第である。

目 安心・安全。だから挑戦

▼2021年に入って仕事量が増え、みやの森通信を書く時間も割きにくい日々が続く。心休まらないと筆も進みにくい▼今号に書いた制度外就労もフリスタも新たなチャレンジ。だが、安心安全が無ければ、チャレンジはおろか、今までの活動継続も困難なのは明白だ▼安全は言うまでもない。その上で、安心して挑戦できる様々な環境が人を育てる▼「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず」先人のこの言葉は見事



居場所、春